

# 令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①インクルーシブ教育実践推進校としての取組を主軸に、系統的な教育課程を構築する。</p> <p>②1人1台端末を活用し「主体的・対話的で深い学び」を追究した授業実践を組織的に積み重ね、「自ら学び続ける生徒」を育てる</p>	<p>①すべての生徒のニーズを踏まえた教育課程を構築する。</p> <p>②1人1台端末を活用した実践研究を活かした授業改善により、生徒の主体的な学びの力を育む。</p>	<p>①すべての生徒のニーズに応じた教育課程の検討を行う。</p> <p>②1人1台端末を用いて「どのように学習効果が高められるか」を意識した組織的な授業改善を行う。</p>	<p>①生徒にニーズに応じた教育課程の検討が行われたか。</p> <p>②校内研修会、研究授業を通して教職員の意識が高まり授業実践が進んだか。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①安心・安全な学校生活を保障するとともに、すべての教育課程を「支援」の観点に基づいて検証・改善していく。</p> <p>②生徒の自己表現・自己実現の機会を充実させ、協働と成功体験の積み重ねによる豊かな人間性を育む。</p>	<p>①授業を大切にする態度を育成するとともに、自他を尊重した、「生き方」「在り方」を育む。また、支援を必要とする生徒のための教育相談体制を充実させる。</p> <p>②生徒が主体的に企画・運営を実施できる学習機会・学校行事を検討しその実現を模索していく。</p>	<p>①遅刻が授業や周りに与える影響を生徒に理解させ、学校全体で遅刻を減らす。</p> <p>①サポートドックなど生徒との個別面談を通して支援ニーズを把握し、生徒理解を進めながら適切な相談体制の確立を図る。</p> <p>②生徒会主催行事の準備・運営に、生徒会執行部や関係委員の役割を作り、生徒の主体的参加を促進する。</p>	<p>①学校全体として遅刻する生徒数とその頻度が減少したか。</p> <p>①支援ニーズを適切に把握し、生徒理解が促進され、相談につながられたか。</p> <p>②生徒会主催行事に生徒の役割が与えられ生徒の主体的参加がみられたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>①キャリア教育の視点に基づいた進路支援とカリキュラムマネジメントに取り組む。</p> <p>②系統的な進路支援体制の構築とともに、個別</p>	<p>①様々な教育力を活用し、個々の生徒のキャリア意識を高める取組を推進する。</p> <p>②生徒の個性や進路意識の段階を踏まえ、</p>	<p>①スタディサポートや進路説明会等を通じて、各生徒の適性把握やキャリア意識の向上を図るとともに、Classi と連携することで、個別最適な学びを充実させ、進路希望を実現させられるよう支援する。</p> <p>②Classi を活用しポートフォリオを作ることで自己</p>	<p>①様々な指導を通じて各生徒の進路希望や適性を正確に把握し、個に応じた支援を行うことができたか。</p> <p>②生徒一人ひとりが、自らの希望や適</p>

		支援を充実させ、一人ひとりのニーズにかなった進路実現を目指す。	個に応じたキャリア教育を推進し実践する。また、キャリア教育の視点を生かした教科指導、特別活動の指導内容等を研究する。	分析を行うとともに、総合的な探究の時間を通じて、自分のキャリアを主体的に想像することができるよう支援する。	性を分析し、主体的に進路を切り拓く支援ができたか。
4	地域等との協働	①地域への貢献と地域資源の活用を両立させ、地域とともに育ち、地域とともに伸びる学校を目指す。  ②信頼される学校づくりのため様々な状況を外部に情報発信する。	①地域、大学、専門学校、企業、行政機関等に加えて、武山支援学校分教室との協働連携を促進し、本校の教育力の向上を図る。  ②本校の教育活動について、保護者や地域に向け学校説明会を始めとし、より広く情報発信に取り組む。	①学校運営協議会や武山支援学校分教室と連携しながら、地域貢献活動、大学や専門学校、企業、行政機関等による出前授業などを通じて、本校の多彩な教育力の伸長を図る。  ②ホームページや学校説明会、中高連携事業の内容を充実させ、本校の教育活動について情報発信する。	①地域、大学、専門学校、企業、行政機関等との協働連携するための働きかけを行い、実践できたか。  ②ホームページや学校説明会、中高連携事業において必要な情報を発信することができたか。
5	学校管理 学校運営	①不祥事ゼロに向け、教職員が一丸となって、風通しの良い環境を醸成する。  ②「働き方改革」を新たな創造に結びつける。	①性犯罪・性暴力をはじめとする不祥事を根絶し、生徒が安心して学校生活を送れるよう、教職員の規範意識醸成や校内環境の整備を行う。  ②「働き方改革」を推進していくため、教職員が健康で働きやすい職場づくりを進めていく。	①セキュリティ対策を万全にし、善悪の判断や倫理的な規範の基準等を再認識するとともに生徒の模範となる教師像の構築に引き続き取り組む。また、生徒が安心して学べる環境づくりに取り組む一方、生徒が相談しやすい雰囲気を作る。  ②業務内容を見直し、仕事の不公平感を是正する。また、情報共有、複数対応の徹底を図る。	①教職員は性犯罪や性暴力についての問題の認識、予防策、対応策の研修を十分に受けたか。学校の環境と文化は安全で、尊重と平等を重視することができたか。  ②タイムマネジメントを確立し、余力を他の教育活動等に振り向けることができたか。